

第6回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

腫瘍センター事務局

平成27年11月14日（土）に第6回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院2病棟6階カンファレンス室で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員以外にも、院外の医師、看護師、訪問看護師と様々な職種の方々が20名参加されました。

当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長より開会の挨拶があり、当院の宮内貴子副看護師長を司会として、各施設より事例提示があった後、ディスカッション形式で全体討議を行いました。

事例1：「大学病院から在宅へ移行後に緩和ケア病棟で看取りを迎えた20歳代のMFH症例」

山口大学医学部附属病院 腫瘍センター	松元満智子先生
徳山中央病院 副看護師長	佐々木文子先生

事例2：「大学病院から緩和ケア病棟で看取りを迎えた胃がん症例」

山口大学医学部附属病院 看護師	岡村倫子先生
山口宇部医療センター 看護師長	齊藤千恵先生

参加者からは、「今回で5回目の参加でしたが、とても勉強になりました。私自身も同じようなケースで悩んだことがあったので、チームを活用する大切さを感じました。」「緩和ケア病院の施設内について知れてよかったです。」「緩和ケアパスサマリーで、情報を伝えることの大切さを改めて感じました。」などの意見が寄せられ、有意義な検討会となり無事終了することができました。

この度は、医療機関の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございます。本検討会は、年2回開催される予定ですので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《 検討会風景 》

